

韓国におけるバレエ団の運営実態と助成制度

尾崎瑠衣 (バレエジャーナリスト)

韓国におけるバレエ団の運営実態と助成制度

調査の目的

世界のバレエ界、特にアジアのバレエ界において韓国は大きな存在感を誇っている。一般に韓国の2大バレエ団と呼ばれる韓国国立バレエ団とユニバーサル・バレエ団は双方とも国際的にツアーを行い、高いレベルのダンサーを擁している。同時に韓国からは著名なダンサーも数多く輩出されており、国際バレエコンクールでも入賞者の中に韓国籍のダンサーを頻繁に見つけることができる。また韓国国立バレエ団、ユニバーサル・バレエ団に加え、それ以外の数多くのバレエ団が、ソウル市や地方で活動しているということも聞く。またその運営方法も、日本の隣国ながら、日本との相違点があるという話もある。本調査は大韓民国におけるバレエ団の運営実態と助成制度について、芸術団体と助成団体の双方から調査を試みたものである。

本調査は2部構成となっている。第1部は韓国政府を含めた助成側の説明と聞き取り調査の結果を紹介し、第2部では芸術団体の概況と聞き取り調査の結果を述べる。本調査では助成元として韓国アーツカウンシルとソウル文化財団、また芸術団体としてはユニバーサル・バレエ団から直接聞き取り調査を行うことができた。加えて韓国文化体育観光部高官からは非公式の場ながら話を聞くことができた。

本調査を通じて韓国国立バレエ団は韓国政府、ユニバーサル・バレエ団は民間企業という盤石な支援基盤を持っており、それ以外は国や地方の支援団体などから様々な支援を受けていることが分かった。

1. 韓国におけるバレエ団への助成制度

韓国においてバレエ団への助成制度は、様々な団体や組織が混在している状況である。一般的に韓国における2大バレエ団の1つと呼ばれる韓国国立バレエ団は、韓国政府から直接支援を受けている。また2大バレエ団のもう一方のユニバーサル・バレエ団は、韓国の一企業から大規模な資金提供を受けている。

光州市には市立の光州舞踊団があり、こちらは光州市から援助を受けているということである。それ以外のソウル・バレエ・シアターをはじめとしたバレエ団は、1.2や1.3で紹介する韓

国アーツカウンシルやソウル文化財団等の組織から、様々なかたちで助成を受けている。また用途別の助成もあり、バレエ団が国際的なツアーを行う場合は、韓国国際交流財団等に助成を受けることが多いという。

本章は中でも中心的な役割を担う、韓国政府文化体育観光部、韓国アーツカウンシル、ソウル文化財団について述べる。韓国政府文化体育観光部高官からは非公式の場で短時間ながら話を聞くことができた。また韓国アーツカウンシル、ソウル文化財団に関しては、聞き取り調査の結果も掲載した。本調査はバレエ団に関わる助成について調べることを目的としているため、文化政策全体ではなく、特にバレエ団への助成に絞って調査を行った。

1.1 韓国政府文化体育観光部

韓国政府において文化政策を担うのは文化体育観光部である。1948年に公報処が設立され、公報部を経て1968年に文化公報部となった。1989年に文化部と公報処に分離、1990年に文化部が設立された。1994年には観光を担う役目が加わった。1998年に文化観光部として再編、2008年の李明博政権の発足を受けて文化体育観光部へ再編され、現在のかたちとなった。

文化体育観光部の目的は「文化を通じた国民の幸せと創造経済の実現」¹とされており、それに関して、4つの戦略的目標が掲げられている。またその目標に対応して13の推進課題が出されている。

戦略的目標	戦略的目標に対する推進課題
融合・複合による創造産業の高度化	1. 文化創造融合ベルトの成果創出 2. 次世代中核コンテンツ発掘の支援 3. 観光産業の競争力強化 4. スポーツ産業の市場と範囲の拡大
創意人材の育成による創造能力の強化	5. 潜在的創意人材の育成 6. 創造中核人材の発掘および育成 7. 創作者中心の好循環の構築
文化を通じた国民の幸せ、社会の統合	8. 「文化のある日」の拡大 9. 生活の中での文化享受 10. 需要者に合わせた文化福祉の強化
文化競争力、K-プレミアムの創出	11. 韓国的な価値のグローバル化 12. 韓流を通じたグローバル接点の拡大 13. 世界と通じ合う韓国

韓国政府文化体育観光部のウェブサイトより作成

1 韓国政府文化体育観光部ウェブサイト <http://www.mcst.go.kr/japanese/ministry/vision/vision.jsp>

韓国政府文化体育観光部高官による談話

政府としては、韓国国立バレエ団をどういった意図で助成していらっしゃいますか？

5年から10年ほど前までは、バレエはある意味、特別な人が観たりしたりするものだと思っていました。しかし昔と比べると、今日ではバレエはとても一般的で人気のあるものになりました。また韓国国立バレエ団は韓国中を巡回するツアーを実施し、地方でも公演を行っています。韓国国立バレエ団の観客も2倍程度に増えました。そのため政府側もなるべく多くの、幅広い層の人々にバレエを観せたいと思うようになったのです。バレエを観るということは、小さな子どもにも非常に良い体験になります。昔は子ども、特に男の子は、バレエを殆ど観に行きませんでした。

韓国国立バレエ団も民間のバレエ団も、地方の若者たちなどに古典や新作を紹介する活動を行っています。またバレエ団は軍の駐留所に行ったり、刑務所に行くなどの貢献も行っていきます。こういった流れで政府はバレエへの助成金を増やすことを決めたのです。

それではバレエの公演は国民の福祉ということでしょうか？

はい、そうです、文化的な福祉という意味です。

文化大臣は文化的な福祉に関心がありますから。文化的なイベントに、もっと多くの人にアクセスをして欲しいのです。この文脈でいうとバレエは福祉で、またその他の古典的な芸術も全てが政府にとって福祉という意味になります。特にバレエは学生や若者、男性にも人気があります。

需要が大きいのので、上演回数も多くする必要があります。

1.2 韓国アーツカウンシル（韓国文化芸術委員会 ARKO）

韓国アーツカウンシル（または韓国文化芸術委員会、略称ARKO）は2005年に施行された韓国文化芸術振興法を受けて設立された特殊法人である。前身は1973年に設立された政府機関の韓国文化芸術振興会である。組織の目的は、芸術家や芸術団体への支援を通じて韓国国民の生活に芸術を供給することである。韓国政府文化体育観光部によって任命された11名の委員によって運営されている。韓国アーツカウンシルは韓国政府の文化政策の形成、施行に大きな役割を果たしている。財源は文化芸術振興基金で、その財源は税金と宝くじの2つである。

年間の収入は1,800億ウォン（以降、W）程度である。

バレエにおいて、韓国アーツカウンシルは主に次の支援を行っている。中規模以下のバレエ団の作品ごとの支援、韓国ダンサーキャリア発展センターへの資金援助、プロとしてキャリアをスタートしていないダンサーへ見習い制度を通じての支援、またバレエ団が国際的なツアーを行う際の資金援助である。

韓国アーツカウンシルへの聞き取り調査

日時：2015年5月29日（金）

韓国アーツカウンシル芸術支援部門部長 ジャン・ヨン・ソク 氏

財源について

韓国アーツカウンシルの財源について教えてください。

政府の予算とは別のものです。国家の予算は国庫を通して使いますが、我々の場合は韓国文化芸術振興基金というファンドを通して運営しているもので、国の予算とは別のものになります。最近になって、宝くじやロトの収入も財源のひとつとなりました。毎年、600億Wが入ります。また競輪や競艇を通して毎年、200億Wが入ります。もともと自分たちで持っていた運営費用もあり、合計すると年間の収入は1,800億W程度です。

本部と地方行政との協力関係、支援体制

韓国アーツカウンシルは1973年に設立された団体で、設立から40余年経ちました。韓国全土にある芸術団体を支援するというのが業務です。ところが最近になって各道、県、市が、それぞれ同じような団体を設立し始めました。地方の行政団体が直接、設立した財団です。私たちの機関とは協力関係にはありますが、別団体です。

協力体制の一環として、まず私たちの機関から年間、総計で約200億Wの費用をそういった芸術団体に支援しています。そして例えば、その市が設立した団体が200億Wの内の5億Wをもらったとしたら、この5億Wに加え、市も5億Wをその団体に支援することになります。我々が50%、市が50%を負担します。

私たちがそういった団体を支援する目的は、中央からは地方の細かい部分までは分からない

からです。地方の現状を知るそういった団体と協力関係を結ぶ必要があるということです。例えば釜山市の芸術支援の場合、釜山市にできた財団を支援することが、釜山市の芸術団体を支援することになるわけです。そういった団体が地方の支援をしてくれるおかげで、私たちは、大規模なイベントや海外の団体との行事などを開催することができます。

よって、私たちが支援するのは1,000万Wから1億W、2億Wというように支援金の規模が大きく、市で作った財団の場合は、1,000万W、500万W、400万Wというように支援金の規模は小さくなります。

舞踊関連に対する支援

私たちが助成するのは、大きな事業や行事、公演がメインとなります。

第一に、私たちは創作ファクトリーと呼んでいます。創作を支援する活動をしています。舞踊分野における予算は14億Wです。この14億Wの支援は、第1段階、第2段階、第3段階という区分に分かれており、創作の段階に分けて支援しているのです。

この助成の目的は、作品の創作を促すことです。例えばユニバーサル・バレエ団のような大きな団体ではなく、中規模からそれ以下の団体が対象です。

支援のプロセスですが、まず第1段階として、書類審査を通過した団体が、約15分間の試演を行います。それに対して約1,500万Wずつ支援を行います。15分間で自分たちがどのような作品を創るのかというのを、各ダンサーを連れてきて実際に観せます。例えば1時間の作品だとしても、15分間だけのものにして、実際にそれを観せ、審査をするというかたちになります。ある年は、ソウル・バレエ・シアターを含め書類審査を通過したこの19団体が15分ずつ試演し、私たちは各団体につき1,500万Wずつ支援をしました。この第1段階では19の団体があったわけです。そこから更に審査をして10団体を選びました。ここで選ばれた団体には、大規模な劇場で公演する場合には5,000万W、小規模な劇場で公演する場合は2,000万Wというように、10団体に劇場規模に合わせた支援をしました。芸術団体は年度末までに作品を完成させ、劇場で公演しなければなりません。

また、再演をする場合の支援事業も行っています。これは以前に支援を受けて公演を行った作品を再演したい場合に、その支援をする制度です。去年は5団体の5作品を支援しました。

舞踊においては、創作公演への支援が、韓国の中で最も高額な支援事業です。

どのような方が審査をするのでしょうか？

舞踊の場合は大学教授、舞踊評論家、それに現役のダンサーが入る場合があります。だいたい5人から7人ぐらいの枠の中で行われます。

審査メンバーは基本的には毎回変わります。ただ例えば短期で複数回を行う場合は、7人で

行われるとしたら、7人中2人ぐらいは、次回にもメンバーに入ることもあります。しかし基本的には毎回変わります。

最終的に劇場で行われる公演は、評価の対象になるのでしょうか？

支援した公演が行われた時は実際に上演されたかどうか、どのような反応があったかを見ます。しかし、公演の質を評価の対象とすることはありません。公演が行われたという事実、自己審査などの確認程度です。ただ、再演したい場合には、実際に良い作品を創って劇場で公演したかが、次回の申請に響きます。上手くいけば実績になります。実際に評価の対象にしなくてもそれぞれが最善を尽くして公演を行っていると思うので、その辺はあまり評価しません。この事業の目的が創作活動を盛んにするということなので。

宝くじを使って行われる支援

第二の事業は広域事業積立金で、これはスポーツ宝くじを使って行われる支援事業です。劇場を支援する事業で、先程の公演団体を支援するものとは少し性格が異なります。

2014年の予算は11億Wでした。昨年の場合には4つの劇場へ、2,500万Wから7,500万Wの間で支援しました。これは2年間連続して支援する事業です。一度選ばれば2年連続で支援されます。初年度に評価をして、2年目に支援額が上がる場合もありますし減額される場合もあります。

全国に劇場はどのくらいあるのでしょうか？

文化芸術会館などの多目的な劇場を含めると、100カ所を少し超える程度でしょうか。多目的なので舞踊ではなく、実際には音楽や演劇だと思います。一年間通して舞踊のみを行っているというのは5カ所から、多くて10カ所ぐらいだろうと思います。

劇場を審査する場合の基準は何でしょう？公演の質ですか？それとも経営内容ですか？

運営が上手くいっているか、それに対する改善努力をしているかどうか、それから事業の成果が実際に出ているのかどうか、この3つが主な審査基準になります。書類審査をすると同時に、現場に行って実際に見てチェックします。

これに関しては事業の特殊性と言ったら良いのか、この市場自体が硬直していると言ったら

良いのでしょうか。大体毎回支援を受ける団体が同じなので、支援を受けていない団体からは非常に不平や不満が多い事業でもあります。

やはり外部の専門家が審査するのですか？

私たちは行政で実務的な面だけ見て、専門家を5人から7人選び、メンバーを毎回変えながら行っています。審査委員を選ぶときも公平に審査ができるよう、年齢や地域、また出身学校が偏らないように選んでいます。

韓国ダンサーキャリア発展センター（DCDC）への支援

DCDCへは昨年、10億Wを支援しました。ダンサーの場合は30歳を超えたら引退する人が非常に多いので、転職をしなければならないし、また怪我の可能性も高いためです。DCDCは、ダンサーの転職や怪我の治療等にかかる費用を支援する団体です。怪我をした際のリハビリ、あるいは予防のための教育もしています。ダンサーだった人たちが新しい仕事を探せるような、転職説明会のようなものも開催しています。おそらく政治力もある団体だろうと思います。

研修生支援事業

また、私たちは文化芸術機関の研修生を支援する事業も行っています。この事業は韓国国立バレエ団へ研修生30人、国立現代舞踊団へ研修生7人を送り込む事業です。例えば韓国国立バレエ団の場合、既に正規の団員は決まっています。大学でバレエを学び、卒業する学生数は非常に多いのですが、彼らは行くところがないので、国が彼らの内30人分の人件費、給与を韓国国立バレエ団へ支援し、30人の職場を作るという事業です。2年間、そういうかたちで働くことができます。この中で実力があるダンサーは、2年間が終わっても、その後は正規の団員として入団できることがあります。これは若者、大学卒業者の新規採用問題、職場の問題とも関係があり、支援している事業の一つです。問題点としては、支援しているのは国立の団体であるため、民間団体からの反発が非常に強く、民間の団体が財政面でも大変なのに、なぜ国立の団体だけを支援するのか、という批判があることです。

国際交流事業

我々は国際交流事業も行っています。例えばユニバーサル・バレエ団もこの支援を受けています。バレエ団が海外公演を行う際に、申請をして審査を通過すれば、支援をするようにしています。2年前、ユニバーサル・バレエ団は、ロシア・モスクワで公演する際に支援を受けました。

審査の過程ですが、第1次審査の対象になったのが284件でその内75件を選定しました。これは舞踊だけではなく、全てを含めた数字です。この内、舞踊は十数件でしょうか。第1次審査が12月に、第2次審査が3月に行われました。3月に行われた際の審査では舞踊分野は5件だったと思います。

支援金額はどれくらいですか？

1,000万Wから6,000万Wです。ユニバーサル・バレエ団がロシアに行った際には、3,000万Wの支援だったと思います。

先程、協力関係にある県が設立した財団があると言いましたが、それらが支援する場合は我々のように金額は大きくなく、1公演あたり500万Wから1,000万Wくらいです。大体500万W前後ではないかと思っています。

芸術団体によっては韓国アーツカウンシルからの助成と、市町村や県等からの助成を両方受けることができますか？

それは禁止されています。支援事業としてシステムを作っており、それに関してはチェックができるようになっていました。もし市でもこちらでも選ばれた場合には、その中の1つを選ぶようになっています。

それに対する批判も結構あります。例えば何か意味のある事業を実施しようとしているのに、その一部を補填する額しか支援されないからです。もし二重に支援を受けることができたなら、もっと上手くいくのにと批判もあります。

韓国アーツカウンシルの年間予算は1,800億Wとのことですが、今まで聞いたお話ですと、芸術団体への支援額全体はあまり高くない印象を受けるのですが、それ以外のお金はどこに使われるのでしょうか？

劇場も持っていますし、資料館も運営しています。また研修生を育成する施設も運営してい

るので、その全てを含めた金額です。また日本で言えば少年院のようなところへ公演団体を派遣することも行っています。例えば1つの団体を選定して、そこへ赴くのに1ヵ所あたり500万Wかかるとしたら、1年で10ヵ所の場合は5,000万Wかかります。そういう事業も行っています。これは特に宝くじを財源とする事業です。調査を行ったところ、宝くじを買うのは貧しい人たちであるケースが非常に多いからです。そういった人たちに還元する意図でやっています。

芸術支援センターというのもあるそうですね。

芸術支援センターが行っているのは、海外で行われるフェスティバルでの公演の機会を提供する事業です。フランスにおける演劇フェスティバルや、エディンバラ演劇フェスティバルなどです。そういった支援をしている芸術支援センターという組織があるのです。

韓国財団（コリアファウンデーション）が行う海外での公演ツアーの支援とは、どう異なるのでしょうか？

韓国財団は外務省の傘下であり、外交を目的として行われる公演を支援することがあります。しかし外務省の傘下にあるため目的は外交です。私たちが先程のような海外公演を支援しているのは、外交が目的ではありません。私たちが支援する団体、芸術支援センターが支援する団体、韓国財団が支援する団体などは、審査を通過した非常に良い団体であることが多いので、そのような団体が複数の所から支援を受けます。結局は特定の団体がたくさんもらうようになります。今説明した内容で、国内における支援事業はひと通り説明ができたと思います。

支援した金額で対象経費のようなものは決まっているのでしょうか？

公演に関するものであれば問題ありません。大体海外公演を行う時は、殆どを航空券に使うことが多いです。あとは舞台セット、舞台衣装、バレエ団の場合は、ダンサーの公演手当です。支援が終了した段階で、支援金が何に使用されたのかの報告と領収書の提出を要求します。もちろん虚偽の領収書、レシートを提出する団体もあります。しかし、そういった団体は2年、3年後に行われる監査によって発見され、懲戒の対象となります。

韓国アーツカウンシルと芸術団体とはどのような関係にありますか？

難しい質問ですが、支援を受けている団体とは上手くやっていますし、支援を受けていない団体とは難しいです。また支援を受けていても、全額ではないのでもっと支援を受けたいと考える団体もあります。

バレエは西洋を起源とする舞踊です。それに税金を使うことに対して何か反発、例えばバレエの代わりにもっと韓国舞踊にお金を使うべきだというような意見などはありますか？

今言われたようなことが問題になったことは一度もありません。バレエが西洋のものであるか、韓国のものであるか、という文脈で論じられたことはありません。上手か下手かということが論じられることはあります。オペラの場合も、オペラに対して支援しないでおこうという話は出たことはありません。オペラの水準がなぜこれほど低いのか、もっと質を上げろという批判はあります。しかしオペラ自体に対する支援を中止しろという話はありません。

バレエと比べて韓国舞踊は人気があるのでしょうか？

韓国舞踊はあまり人気がありません。もちろん年配者に好きな人は多いです。しかし人気がなくとも保存、継承という意味で支援をしています。ダンス界の中で人気の順序からいくと、バレエ、現代舞踊、韓国舞踊です。

新事業や新しい助成は、その時の政権の方針と連動しているのでしょうか？

政権が交代する度に多少の変化はあるかもしれませんが、大きく変わるということはありません。

1.3 ソウル市文化財団

ソウル市文化財団はソウル市によって2004年に設立された団体である。組織の目的は「ソウルは芸術によって活気づき、ソウル市民は文化によって幸せになる」というもので、スロー

ガンを「文化は夢、文化は育ち続ける」としている。戦略的な目標は政策的視点（民間と公的機関の関係強化は幅広い文化政策実現の可能性を高める）、ビジネスの視点（文化と芸術的ネットワークを強化し、社会的価値を生み出す能力を向上する）、組織的視点（成長性、組織的効率性、そして専門性は組織を安定させ、その存在を強化する）から立てられている。政策的な目標は以下の6つである。

【ソウル市文化財団の政策的目標】

- ソウル市民の参加を通じて文化的ガバナンスを強化する。
- 文化的、芸術的エコシステムにおいて自然発生能力を高める。
- パートナーシップや協力を通じてビジネスを強化する。
- 幅広い文化政策を実現する能力を高める。
- 文化や芸術の価値を広めることで、ソウル市民に人間的生活や幸せを与える。
- 作業の効率化を最大限にし、また組織の能力を最大化する。

（ソウル市文化財団ウェブサイトより）

助成の対象は幅広く、プロの活動からソウル市民の芸術的活動、またフェスティバルなどへの支援も行っている。バレエにおいては常駐団体として支援されている団体がある。

ソウル市文化財団への聞き取り調査

日時：2015年6月1日（月）

ソウル市文化財団芸術支援チームマネージャー バク・セン・ウ氏

舞踊ではどのような種類のものに助成をされているのか教えてください。

韓国舞踊・現代舞踊・バレエ・それ以外のもの、と4つの種類です。ストリートダンスには支援をしていません。その4つの中でも特に力を入れて支援しているのは、韓国舞踊と現代舞踊です。伝統舞踊に主に力を入れていますが、生活舞踊に対してはあまり支援をしていません。韓国舞踊の場合には「創作」という創作分野と、それから「伝統の継承」という2つの分野に分かれています。

特にどのような団体へ支援をされていますか？

韓国政府が支援している団体、また自治体の予算の一環として支援している団体と、我々が支援する団体が重なるということはありません。ただそういった団体に対しても、作品単位、公演単位で支援を行うことはあります。

例えば韓国国立バレエ団への支援は我々からではなく政府から直接行われます。我々はソウル市において行われている芸術活動に対して支援をしています。重複する場合には支援をしません。

この場合は、ソウル文化財団なので、ソウル市の中に劇場がなければ支援することはできません。韓国アーツカウンシルは全国的に支援をしていますが、もしソウル文化財団と重複して支援を受けた場合は、ソウル市の支援が取り消されます。

また事業の領域に関しても韓国アーツカウンシルの場合は大きな行事をメインにしています。しかし、ソウル市の場合は、ソウル市にある劇場で上演される作品を中心に支援がなされています。

支援を受けているバレエ団は殆どが中堅団体です。例えば音楽バレエ団、マッポにあるワイズ・バレエ団、イーオング・ソ・バレエ団とソウル・バレエ・シアターなどです。運営の状況により人数の増減があるので、正確には把握していませんが、30人から40人程度の団体です。

様々な種類の助成を行っていると言いました。

事業の支援も色々と種類があります。作品だけを支援する場合には、この作品に対する制作費を一部支援します。新人団体と言って、若者が新しい団体を作った場合、それを発展させていくための人件費や、公演できる劇場について支援したりもします。もう1つは常駐団体と言って、市や区で運営されている芸術会館に常駐している団体に人件費なども支援する、そういったいくつかの事業を行っています。この作品制作への支援、人件費への支援、また劇場常駐団体への支援の3つ全てを、受け取っている団体があります。

支援額はいくらぐらいですか？

イーオング・ソ・バレエ団とワイズ・バレエ団が年間約1億Wです。これは常駐団体です。

作品の支援に関しては、どの程度されているのでしょうか？

今年、バレエで作品を支援するのは7件あります。それから先程の事業支援の中では、団体に支援するものもありますし、個人に支援するものもあります。またユニバーサル・バレエ団を含め、ソウルには民間バレエ団が5つあるのですが、基本的には作品を中心に支援をしています。個人の場合も公演の時期、またどの劇場でどのような作品を上演するのかということを申請する時に決めてもらい、支援が決まります。そのため作品を変更した場合は、支援は取り消されます。

常駐団体について

常駐団体はどこかの劇場と提携をしているのでしょうか？

基本的には劇場に常駐しています。その劇場にある練習場を使用し、劇場で上演します。主に地域との関係性を重視している政策の中の一つなので、市民あるいは区民に対する上演をメインに行います。多少の違いはありますが、事務所の空間もこちらが提供しているところもあります。

助成金はどのように使用されるのでしょうか？ 例えば先程1億Wとおっしゃいましたが、これは団体運営に使用して良いものなのでしょうか？それとも作品に使用しなければならないという決まりはありますか？

団体運営費に使用しても構いません。作品に使用しても構いません。100%だとしたら4対6という比率の決まりがあり、40%までは事務所運営関係に使用しても良いのですが、残りの60%に関しては地域住民のための作品を上演する、あるいは作品制作の費用に使用しなければなりません。

この収入のみでは、おそらくバレエ団の運営は成り立たないのではないかと思います。この支援額はバレエ団の収入の何%程度をカバーしているのでしょうか？

率直に言うとはよく分かりません。正直に話してくれる団体はあまりありませんから。基本的に皆さんが共通して言うのは、「自分たちが自立して生きていくための最低限の助けにはなっ

ている」ということです。

会計を開示する義務はないということなのでしょうか？

ソウル市文化財団の場合、1億Wを支援した時はその支援金に対して全て報告を受けることになっています。しかしそれ以外に要求しているものはありません。もちろん税務的な観点から言って、税務署等には報告していると思います。こちらに対して開示する義務はありません。

その他に資金の用途に関して規定などはありますか？

あります。人件費に関しても、正しく雇われている人であれば構いませんが、それ以外に使われるのは問題があります。接待費も問題視されることがあります。基本的にそういった基準はありますが、それ以外は自由に使用できるようにしています。

審査基準

審査の方法を教えてください。

まず、書類審査があります。それから、どういった作品を行うかという点での審査となります。我々が審査委員を任命し、その審査委員たちに書類を送ることになっています。審査委員の採点を元に点数表を作り、それを基準として上位何%という形でいくつかの作品が通過します。その後、審査委員を全員呼び、書類審査を通過した作品について具体的な討論を行います。例えば20団体が候補に挙がっていて、その中の10団体にいくらを支援するかということに関して討論し、いくつかの段階を踏んで決定します。今お話ししたのは作品や公演を支援する形態です。

公募の仕方は、事業によって色々と違いがあります。応募システムとして考えていただければ良いのですが、インタビューが行われる場合もありますし、今言ったように、書類を送ってもらう場合もあります。各団体から申請があった上で、審査委員に討論をしてもらい、それで選定するというシステムになっています。

審査委員はどういった人なのでしょう？

評論家や振付家、また支援団体以外の団体の代表者になることもあります。色々な角度から総合的な判断ができるよう、一つの分野に偏ることのないようにしています。

その時点で、芸術以外の運営面の評価というのは審査基準に入るのでしょうか？

運営が上手くいっているかとかいうよりも、上手くやろうとしているかどうかというのは見ます。現時点で運営が上手くいってなくても、改善しようとしていれば良いという考え方で。例えば韓国には芸術の殿堂というところがありますが、その劇場で公演を行うのに本当にふさわしい予算を立てているのかどうか、そういった点は見ます。団体の運営状況自体はあまり関係ありません。

公演後の評価はどうされていますか？

評価する点は二つあります。現場の評価と呼ばれるものがあり、それは実際に選定した人たちがその公演を観に行って、その作品がどうであったか評価するものです。あとは精算を正確に行ったかどうか、といった事務的な点での評価があります。予算通りに実行したかどうかを見ます。それからその公演を運営するにあたって予定通りに進んだのかを評価します。この評価は、次回またその団体の別の作品を審査する際に資料として反映されます。

公演について評価する人たちは、どのような人たちなのでしょう？

公演の質を評価するというのは、上手くいっているとお考えですか？

現在のところ、それ程問題はないと思います。現在、私たちが公演を審査してもらっている人たちの中には、専門家もいますが一般の市民もいます。誰が審査委員なのか、よく分からないようになっています。そういう意味で上手く機能しているのではないかと思います。

専門家が3人、市民が3人です。市民の中に大学生や主婦もいて、モニターのようなかたちで募集します。点数と共通的な評価があり、その人たちが書いた共通的な評価に関しては、その団体にフィードバックします。

作品単位での助成には、例えばバレエに関わるものでしたら、いくらぐらい支払われているのでしょうか。

全体の平均では1,700万W程度です。規定によれば500万Wから5,000万Wまでになっています。作品の規模によって、支援の額が違います。個人の場合には1,000万Wまでの支援となっています。

バレエに限った場合でしたら、全体でどれぐらいの支援をされているのでしょうか。

おそらく、4億Wから5億Wの間だと思います。純粹にバレエだけに支援されるのが4億から5億Wぐらい。舞踊フェスティバルや韓国舞踊まで入れれば、もう少し大きくなるかもしれません。

バレエに関わる教育プログラムへの支援は何かされていますか。

この建物の1階にスタジオがありますが、そこでバレエを教えています。それに対して支援プログラムを行っています。また、先程ソウル・バレエ・シアターの話が出たので参考までに言えば、低所得層の子どもたちに対してのバレエの教育を支援するプログラムを、ソウル・バレエ・シアターと一緒に考えているところです。

劇場にいる常駐団体の場合は、市民のために何か無料の教育プログラムを行うと当然そういうことに対しての評価はされます。

財源について伺います。財源はすべてソウル市ですか？

90%はそうです。10%は、寄付に加えて基本財産から出てくる利息です。

バレエはヨーロッパで生まれた芸術です。西洋が発祥の芸術に国民の税金を使うということに対して、韓国内で批判はあるのでしょうか？

西洋芸術だから、といった批判はありません。自分の知っている限り、過去を振り返ってみても、そういった批判は全くありません。舞踊自体を観に行く観客の比率は、全体から見ると非常に少ないからかもしれません。

韓国社会においてバレエはどのような位置付けなのでしょう？

大衆が好きな芸術だと思います。創作バレエは難しいと思いますが、例えば『くるみ割り人形』等の古典バレエは、大衆が好きだと思います。最近、バレエの人気が高まってきています。特に大人の女性がバレエスタジオに通ったりもしています。

バレエといえば高級文化というイメージはあります。実際にバレエや芸術を学んでいる人たちは、韓国では芸術中学校、高校、大学といったように進んでいくので、ある程度費用がかかる、そういう認識はあります。学費が一般より高いからです。

韓国政治と文化政策

政権が変わると政策も変わります。そういった変化の煽りは文化政策にも現れるのでは？

ある程度はありますが、大筋では変わりません。ただ、新しく始めたものがなくなったりすることはあります。しかし、おっしゃる通り、ここは私たちの弱い部分だと思います。政治的变化による文化への影響を防ぐ力は、我々にはありません。

2. 韓国のバレエ団をめぐる概況と運営実態

韓国では韓国国立バレエ団とユニバーサル・バレエ団が一般的に2大バレエ団と呼ばれている。また光州市には光州市立舞踊団があり、こちらもバレエを行っている。光州市立舞踊団を含めて3大バレエ団という呼び方をしているウェブサイトなどもある。

またソウル市にはユニバーサル・バレエ団を含めて民間のバレエ団が5つある。また全国にも民間のバレエ団がある。

韓国のバレエ界全体は非常に活気があり、バレエ学習者数、観客数ともに非常に多い。

本調査では、その中でも韓国国立バレエ団とユニバーサル・バレエ団について述べる。また聞き取り調査に協力してくださったユニバーサル・バレエ団に関しては、その結果も掲載している。

2.1 韓国国立バレエ団

韓国国立バレエ団は1962年にソウルで初のプロバレエ団として設立された。本拠地はソウルアーツセンター（芸術の殿堂）。現在の芸術監督はスー・ジン・カンである。レパートリーは古典バレエを中心に、現代作品まで幅広い。公演回数は年間約100公演程度。正式な団員は約70名。また見習い団員として約15名が在籍している。主な財源は政府からである。

韓国国立バレエ団には、聞き取り調査の依頼をしたが、調査協力はできないとのことだった。

2.2 ユニバーサル・バレエ団

いわゆる韓国2大バレエ団の内のひとつで、民間のバレエ団である。1984年に創立された。本拠地はソウルのユニバーサル・アート・センター。現在まで総監督はジュリア・ムーンが務める。2000年頃まではレパートリーはロシアのバレエ作品が中心であったが、近年はヨーロッパの振付家による作品なども含め、レパートリーは幅広い。ダンサー数は約70名、年間の公演数は約80公演以上である。民間企業であるトンイルグループが支援している。

ユニバーサル・バレエ団への聞き取り調査

日時：2015年5月29日（金）

「ユニバーサル・バレエ団事務局長 ソフィア・リム氏」

収入源とその割合を教えてくださいか？

殆どの資金は（民間企業である）トンイルグループから来ています。トンイルグループからの資金は収入の50%を占めています。全体の予算は100億Wです。残りの50%はチケットの売り上げ、政府からの収入、寄付、公演の出演料などです。30%が様々な基金や政府からの収入、寄付を合計した割合です。政府や行政の支援は8%です。なぜなら私たちはトンイルグループから資金の提供を受けているため、政府からはあまり助成の必要がない団体と思われるのです。毎年、政府の行う助成プログラムに申請しており、私たちはレベルが高くプロフェッショナルなバレエ団であるため申請は通ります。しかし政府との話し合いの末に、助成

の金額そのものはあまり高くないことになっています。

どういった事業が助成を受け易いのでしょうか？ やはり新作は、助成を受け易いですか？

新作だけではなく、例えば『ラ・バヤデール』を上演した時にも助成金は出ました。しかし新作の制作の方が助成金は出易いです。

審査は公正だと思われますか？

韓国ではインターネットでの情報公開が非常に広まっているので、誰が審査して、どのような理由で審査を通過したかも分かります。

近年の変化

5年前はもっと多額の助成金を少数の芸術団体に与えていました。しかし新しい文化大臣になってからは、数多くの団体に少額の助成金を支払うようになりました。今の制度に対してはみんなが不満を言っています。額が本当に少なく、それではプロダクション全体を賄うことができないからです。また彼らは全団体への助成額を一律に減額しました。それが公平だからという理由です。しかし特に規模の大きな団体はこのことに本当に怒っています。

別の変化も起きました。5年前は韓国国立バレエ団の収入は50%が政府からでしたが、現在は政府からの支援が70%です。新しい文化大臣が、すべての国立団体をもっと支援すべきだという方針を打ち出したためです。これはバレエだけではなく他の芸術にも適用されています。

助成金の支払いのスケジュールを教えてください。

公演前に支払われます。公演後には詳細な報告をしますし、支出に関してはすべての領収書を添付します。私たちのバレエ団はこういった書類作成に長けている有能な事務スタッフがいるので、問題ありません。

しかし小規模な団体、例えばプロの事務スタッフが一人もいないような団体はこれに対していつも不満を言っています。

ユニバーサル・バレエ団には16名の運営スタッフがあります。それ以外に技術スタッフやダンスの先生などを入れると、ダンサー以外のスタッフは45名です。みんな給与を得て働いて

います。

建物について教えてください。

建物には4つスタジオがあります。その内2つはバレエを学ぶ学生に使われています。ユニバーサル・バレエ・アカデミーの学生とスンワ（Sunhwa）芸術学校の学生にです。劇場も所有しています。また系列のダンスグループが2つあります。1つはリトル・エンジェルスで、これは子供のダンス・カンパニーです。最近になって設立されたジュニアカンパニーもあります。ダンサーは7名で、まだ公演もしていません。しかしレベルは高いので、将来は明るいと思っています。

またソウルの近辺に、2つの倉庫を所有しています。舞台装置を保存しておく施設です。私たちに30年の歴史があり、舞台装置の量も膨大です。建物内には衣装部屋があります。しかし建物内の衣装部屋で衣装を作ることはしていません。衣装を作るのは提携会社なのです。

年間の公演数はどのくらいですか？

今年（2015年）は新作を上演するのであまり公演を行うことができないため、70公演くらいでしょうか。基本的に、公演数は毎年80公演以上です。目標として年間100公演を掲げています。

2011年から2013年まで本当にたくさんの海外公演を行いました。プロモーションが目的です。その公演を観た多数の劇場や招致元から連絡があり、私たちに公演に招待してくれるようになりました。例えば2016年には、フランスの招聘元から招待があり、パレ・デ・コングレ・ド・パリで『ドン・キホーテ』と『くるみ割り人形』の公演を行います。

海外ツアーには特別な助成金が出るのでしょうか？

出ます。アーツカウンシルから出る場合もありますし、韓国財団から出る場合もあります。アーツカウンシルは文化省の管轄で、韓国財団は外務省の管轄なのです。海外ツアーはお金がかかりますから。韓国財団から出る金額の方が大きいことが多いです。例えば2国間の交流を記念するような場合は8,000万Wくらいでしょうか。アーツカウンシルの場合は2,500万Wですので、やはり額としては大きいわけです。もちろんどちらもツアーの費用全てを賄えるわけではありません。だからこそ、招待をしてくれる招聘元を探すのが鍵になってくるのです。私たちとしては国立の組織が支援してくれる機会を探したいと思っています。経済的にリスクがないからです。個人のエージェントが招聘する場合は、例えばチケットが売れなかった場合は、

公演がキャンセルされたり支払いがなかったりするからです。

ダンサーの給与のレベルはどの程度なのでしょう？

例えば会社員と比較すると、非常に低いと思います。しかし韓国の他の芸術団体と比較した場合は、待遇はそれなりに良いのではないかと思います。ソウル市内に部屋を借りて、食費を払うのは給与で賄えると思います。5年前と比較すると韓国国立バレエ団の給与は非常に高くなりました。韓国国立バレエ団に友人がいるユニバーサル・バレエ団のダンサーに、給与を上げて欲しいと言われることもあります。ダンサー同士で情報交換していますから。韓国のダンサーは、基本給と公演料の両方を受け取っていますが、韓国国立バレエ団の方が両方とも高いのです。ただユニバーサル・バレエ団はあくまで民間のバレエ団なので、全て韓国国立バレエ団の水準に合わせることはできません。ただ総監督のジュリア・ムーンはアーティストに敬意を抱いているので、なるべく給与は上げるようにしています。

トンイルグループから提供される資金を引き下げたい、といったような要請が来ることはあるのでしょうか？

あります。数年前、すべての系列会社は自身で経営を行うシステムに変わりました。バレエ団でもっと収益を上げるようにプレッシャーがかかっています。だからこそ、またそれに加えて韓国のバレエ教育の底上げを図るためにも、ジュリア・バレエ・アカデミーを創設したのです。

複数のバレエ学校をお持ちだと聞きました。

私たちのバレエ団には3つのバレエ学校があります。ユニバーサル・バレエ・アカデミー、ワシントン・キーロフ・バレエ・アカデミー、それにジュリア・バレエ・アカデミーです。ユニバーサル・バレエ・アカデミーとジュリア・バレエ・アカデミーは韓国・ソウルに、ワシントン・キーロフ・バレエ・アカデミーはワシントンに拠点を置いています。ユニバーサル・バレエ・アカデミーはプロ養成、ジュリア・バレエ・アカデミーはもう少し一般大衆や子供向けという差があります。ジュリア・バレエ・アカデミーでは50%の生徒が8歳以下です。韓国の生活水準は上がっていて、親は子供の教育にお金を使うようになっています。娘を持つ親の多くは、娘にバレエを習わせたいと思うのです。美しい心に美しい身体を持って欲しいと望みます。ジュリア・バレエ・アカデミーには600名の生徒がいます。江南区、松坡区など複数の拠点があり、またさらに2校を開校しようとしています。

またジュリア・バレエ・アカデミーとユニバーサル・バレエ・アカデミーの両方で、教師養成プログラムを提供しています。

教授法はワガノワ・メソッドだとか？

ユニバーサル・バレエ団は1984年に設立されました。ワガノワ・メソッドを基にしています。それを韓国人の身体に適応させて発展させたので、ユニバーサル・バレエ・システムと呼んでいます。オレグ・ヴィノグラードフが芸術監督だったこともあり、ロシア流を叩き込まれています。

トンイルグループは芸術的な側面に何か指示を出すことがあるのですか？

ありません。彼らはただ資金を提供するだけです。芸術的な決定に関してはジュリア・ムーンがします。

トンイルグループがこれだけ長い間に渡ってユニバーサル・バレエ団を支援する理由というのはどこにあるのでしょうか？

まず総監督のジュリア・ムーンが、トンイルグループのトップの義理の娘にあたるから、という理由があります。彼はジュリアに、美は世界を救うので、バレエを通じて世界をもっと美しい場所にして欲しい、と言ったと聞いています。だからこそ、彼はユニバーサル・バレエ団を設立したのです。

外国人のダンサーは何名ぐらいいますか？

現在、25名います。その内13名は中国人です。1~2名、日本人のダンサーもいます。ロシア人が2名、南アフリカ人が1名、それにルーマニア人が1名います。非常に開かれたカンパニーです。

身長制限もあります。日本人のダンサーはそこで選考から漏れてしまうこともあります。女性は165cm以上、男性は180cm以上でなければいけません。これはジュリア・ムーンが背の高いダンサーを好むこととも関係があります。

劇場やスタジオなど、建物の維持にはお金もかかるのでは？

維持費というかたちでの助成金はないので、私たちは劇場を貸して維持費を捻出しています。それで年間8億Wの収入を得ています。また劇場の地下には会議のできるようなスペースもありますので、それも貸しています。建物は34年前に建設されたもので、老朽化が進み、修繕も考えています。

参考文献

- 木村典子「海外STUDY 韓国新政府の文化政策改革」『地域創造』 Vol.27 2010年, pg.63- pg.68
木村典子「海外STUDY 文化強国を志向する韓国の文化芸術制作」『地域創造』 Vol.21 2007年 pg.61-pg.67
申斗燮「芸術文化団体に対する支援と税制 韓国の現状を中心に」『文化経済学』, Vol. 3 (2002-2003) 号 No. 1 pg.49-pg.57

ウェブサイト

- 韓国アーツカウンシルウェブサイト <https://www.arko.or.kr/english/main.jsp>
韓国国立バレエ団ウェブサイト <http://www.kballet.org/>
韓国政府文化体育観光部（日本語）ウェブサイト <http://www.mcst.go.kr/japanese/index.jsp>
ソウル市文化財団 <http://www.sfac.or.kr/html/main/index.asp>
ユニバーサル・バレエ団ウェブサイト <http://www.universalballet.com/english/ballet/about.asp>